

# LOBO 調査

## 早期景気観測

11月 日商調査日 11月8日～20日  
当所調査日 11月8日～21日

### LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

11月の全産業D I ▲26・8  
(前月比 ▲2.7ポイント悪化)

### ○中小企業の景況感

消費税率の引き上げの影響や人件費の上昇、受注機会の損失、人手不足の深刻化、原材料の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦、世界経済の動向、日韓情勢の行方など不透明感が増す中、中小企業の業況感は慎重な姿勢が続く。

### ○プラス要因

省力化投資を中心とする設備投資や都市部の民間工事などの建設業は堅調に推移。

### ○マイナス要因

消費税率引き上げに伴う消費者の節約志向の強まりや高額品を中心とする駆け込み需要の反動減の影響が残り、小売業やサービス業、卸売業など幅広い業種の売り上げが落ち込んだ。

### ○先行き

先行き見通しD I が ▲23・5 (前月

比+3.3ポイント) 好転。

### ○期待感

クリスマスや年末年始の個人消費拡大、インバウンドを含めた観光需要の拡大への期待感がうかがえる。

### 【関東ブロックの業況についてのコメント】

台風被害による修繕依頼が大幅に増加しているが、屋根や樋の修理に偏っているため、業者の手配が間に合わない。必要な資材も不足しており、依頼を受けても来年以降の対応しかできない状況(建築工事業)。

業務内容が消費者に直結している取引先は価格に厳しい傾向がある。また新規顧客は交渉によって適正価格に落ち着いているが、取引の長い既存顧客は価格交渉が非常に難しい(計量器測定器等製造業)。

民間工事を中心に建設業からの受注は堅調なもの、仕入価格や人件費、運送費などの上昇分の販売価格への転嫁に難航しており、収益確保に苦戦している(建設資材等卸売業)。

### 【当所調査】

### 「全体平均D I はやや好転」

全体平均D I は ▲14・1ポイントで、前月に比べ+9・0ポイントの好転。

項目別では、前月と比較し採算先行きが+14・4ポイント、仕入先行きが+18・2ポイント好転した。

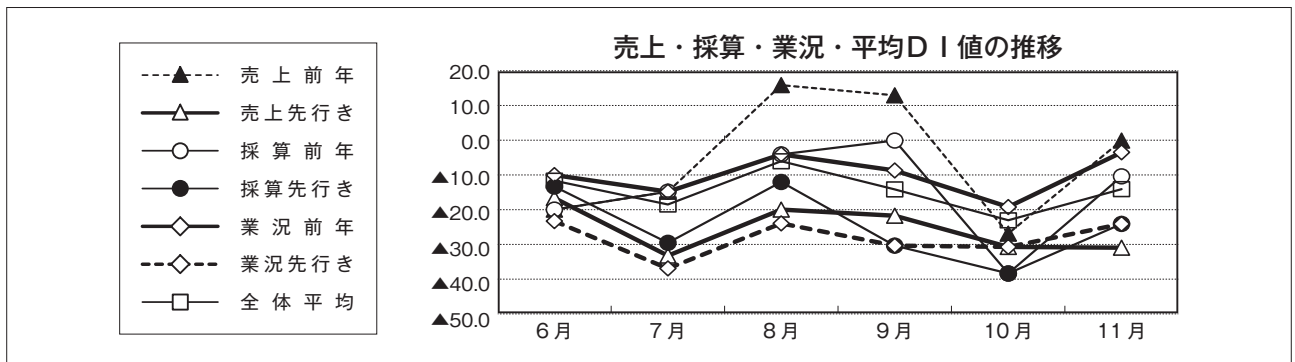
寄せられたコメントには「増税と大型台風の影響が経営に響いている(楽器小売業)」という声が聞かれた。

(全産業)

## 水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(D I 値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和元年						
	平成30年 11月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上前年	13.8	▲20.0	▲14.8	16.0	13.0	▲26.9	0.0
売上先行き	6.9	▲16.7	▲33.3	▲20.0	▲21.7	▲30.8	▲31.0
採算前年	10.3	▲20.0	▲14.8	▲4.0	0.0	▲38.5	▲10.3
採算先行き	▲3.4	▲13.3	▲29.6	▲12.0	▲30.4	▲38.5	▲24.1
仕入前年	▲44.8	▲26.7	▲37.0	▲28.0	▲52.2	▲42.3	▲48.3
仕入先行き	▲44.8	▲40.0	▲40.7	▲28.0	▲56.5	▲42.3	▲24.1
社員前年	27.6	20.0	14.8	32.0	30.4	19.2	17.2
社員先行き	34.5	20.0	14.8	20.0	26.1	19.2	20.7
業況前年	13.8	▲10.0	▲14.8	▲4.0	▲8.7	▲19.2	▲3.4
業況先行き	▲3.4	▲23.3	▲37.0	▲24.0	▲30.4	▲30.8	▲24.1
資金前年	6.9	▲3.3	▲11.1	▲4.0	▲13.0	▲19.2	▲17.2
資金先行き	▲3.4	▲6.7	▲18.5	▲16.0	▲26.1	▲26.9	▲24.1
全体平均	1.1	▲11.7	▲18.5	▲6.0	▲14.1	▲23.1	▲14.1



※D I 値(景況判断指数) = (増加・好転などの回答数-減少・悪化などの回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。